

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.226



# インフォメーション

問い合せ:仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから



## マチノワギャラリーで皆さんの活動をPRしませんか?

サポセンの正面玄関風除室に、新しく「マチノワギャラリー」ができました。市民活動やボランティア活動など、 団体の活動をPRできる展示スペースです。通りがかりの人やサポセン来館者に皆さんの活動について発 信することができます。

「活動はしているけれど、PRの場所がない」、「さらに活動を普及させたい」という団体のみなさん、ぜひご活用 ください。お待ちしております!(鎌田)



## 5階交流サロン ~新しい交流サロンを使いこなしちゃいましょう!~

交流サロンは、ボランティア活動や市民活動をされている方が、事務作業や少人数の打合せに利用できるフリースペースです。無線LANも利用できます。



## 【アクティブミーティングスペース】

- 1テーブル4席あります。人数が増えたら、1グループ につき2台までテーブルを使用でき、テーブル・ イスを移動して使うことができます。
- 貸出備品のモニターは、パソコンをつないで 使用できます。会議をしたり、画像のチェックを したり、使いみちは皆さん次第です。



【スタンダードミーティングスペース】

- 1テーブル6席あります。席を増やすことは できません。周りが気になる場合には、隣の 席との仕切りがオススメです。
- ホワイトボードとマーカーペンは備え付け のものを使うことができます。



【ソロワークスペース】

● ソロワークスペースは、1テーブル2席あり ます。席を増やすことはできません。集中 して作業したい方にピッタリです。

※備品の貸出しや、詳しいご利用方法は1階受付にてお尋ねください。

**▶**[ぱれっと]バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

## つながる つなげる サポセン

### 仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちを もっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

## ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団 体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分 [HP] http://www.sapo-sen.jp [Blog] http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者と して、管理運営を行っています。 [指定管理期間2015年4月1日~2020年3月31日]

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

発行日 2018年6月1日 編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

孕行

太田貴 菅野祥子 松村翔子 宮崎真央 鎌田みずほ 水原のぞみ 発行部数

「ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス

いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

仙台市市民活動サポートセンター

市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設 配布場所

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.226



むらかわ み き

フェアトレード推進サークル amo 代表

村川 美希 \*4 (20)

## いつかは誰もが 世界に社会貢献!

村川さんは、東北大学経済学部の3年生。発展途上国 の貧困問題解決のために、チョコレートやコーヒー などの原料を適正価格で継続的に取引する「フェア トレード」を普及させる活動をしています。自ら フェアトレード製品として販売された服を着て、 活動に臨みます。

出身は神奈川県。幼稚園から高校まで15年間カトリック 系の学校で学び、その中で世界の社会問題に触れ、 興味を持つようになりました。大学入学をきっかけに 仙台へ。自分がこれまで当たり前に触れてきた課題を 知る人が、あまりに少ない現状に驚きました。「課題を 知ることで現状を改善できるはず」と、大学で経済学を 共に学ぶ仲間とサークルを立ち上げました。

今後はサークル活動に留まらず、途上国を訪れ実際に 現地の状況を見たり、経済状況を根本的に解決する べく、ビジネス的観点からも途上国を支援できる方法 を模索中です。「なんとなく大学生活を終わらせて しまうのはもったいない。卒業するまでに何かを 成し遂げたい」と目を輝かせます。

取材・文 宮﨑真央

## フェアトレード推進サークル amo

HP https://amofairtradetohoku.wixsite.com/amo-fairtrade-tohoku Twitter @amo FT tohoku

フェアトレードを一般に普及させることで、発展途上国の経済状況を改善し、自立を支援する学生サークルです。 2016年12月に設立し、16人のメンバーで活動中。学内で広報物を使った啓発活動をしたり、仙台市内の 臨時店舗でフェアトレード製品を販売したりしています。サークル名の「amo」はエスペラント語で「愛」の意味。 貧困により学校にも行けず労働を強いられる子ども達が、夢を実現できる社会への願いがこめられています。

特集

商店街マップが地域の暮らしを支える

八木山中央商店会エリアくらしのマップ

# 商店街マップが地域の暮らしを支える 八木山中央商店会エリアくらしのマップ

太白区八木山地域は、自然の豊かさが残る住宅造成地です。小高い丘の上までバス通りを登ると800mほどの商店街があります。 2017年10月、商店街の情報が詰まった『八木山中央商店会エリアくらしのマップ』が完成。八木山中央商店会(以下、商店会)と 市民のものづくりをサポートする団体FabLab SENDAI-FLAT(以下、FLAT)による協働の取り組みを紹介します。

> 地域の人たちのものづくりを サポートしていきたい





[ FabLab SENDAI-FLATと大学生たち ]

お のでらし の 小野寺志乃まん

今、暮らしている人にこそ 八木山の魅力を知ってもらいたい





[八木山中央商店会]

総務 いとうのりこ 会長 山田公夫 まん 部長 伊藤典子 きん

[ 仙台市地域産業支援課 ]

商店街が発展していくのを応援したい



八木山には1973年頃から続く商店街があり、床屋や八百屋など 昔ながらの商店が並びます。住民の高齢化が進む一方、大学もある ことから学生も多く暮らす地域です。30店舗が加盟する商店会では、 商店街に親しんでもらえるよう毎年夏祭りや七夕、フリーマーケットな どの行事を実施しています。地元の人にもっと商店街を活用してもら おうと制作した『八木山中央商店会エリアくらしのマップ』(以下、くら しのマップ)の表面にはイラストも交えたマップと、裏面は各商店の営 業時間や連絡先、店舗写真が掲載されています。目指したのは、字 が大きくて見やすく、親しみやすいマップです。

商店会の思いを形にしたのは、FLATの小野寺志乃さんです。 FLATは青葉区南町通りにある工作工房です。3Dプリンターやデジ タル刺繍ミシンなどの機材が利用できたり、工作ワークショップに参加 できたり、未経験の個人からプロまでさまざまな人が利用しています。 マップについて小野寺さんは、「どの家の冷蔵庫にも貼ってあるような、 便利なマップにしたかった」と言います。制作にはFLATの活動に関

わる大学生も加わり力を発揮。制作費は仙台市の商店街地域ビジ ネス連携促進事業を活用しています。

## お互いの思いを補い合って形にする

「地下鉄東西線ができたことで市内に出かけやすくなり、商店街 へ立ち寄る人も減ってしまった と商店会会長の山田公夫さんは言 います。また、「店の情報が分からないので利用しにくい」という住 民の声も。商店会を立ち上げた45年前は50店舗あった商店街も 今では30店舗に減りました。地元の人が商店街を利用しやすいよ うにと両者を結びつけるくらしのマップを制作しました。

商店会とFLATの出会いは2016年、商店会の夏祭りでした。仙 台市地域産業支援課からの紹介で、FLATが大学生と工作ワーク ショップを出展。地域の子どもたちと、絵の具を溶かした洗剤でシャボ ン玉を吹き、弾けた形で絵を描いて遊びました。お金の代わりにペット ボトルのキャップを使いました。商店会総務部長の伊藤典子さんは 「若い人たちの発想の面白さに驚いた」と話します。くらしのマップを作

アフリカ・ケニアの子どもたちに 笑顔を届けるお手伝い~ボランティア募集中~

ケニアと日本を結ぶ架け橋として教育支援・経済的自立支援・文化交流を通して、共に生

明日にかかる虹 「東日本大震災」 「発達障がい」と子どもたちの現実 著者:冨部志保子 阿蘭ヒサコ 出版:NTT出版株式会社 出版年:2013年

本書は、「東日本大震災で両親を失った子どもたちと事故で息 子を失った復興ボランティアの女性との物語」、「発達障がいの 息子とその現状を受け入れられず葛藤する母親との物語」の2 つの物語で構成されています。2つの物語はフィクションですが、 同じような状況におかれている子どもたちが現実にいます。子ども たちの抱える問題について考えるきっかけになる1冊です。



き、共に成長し合える活動をしています。アフリカを伝える活動、ケニア現地の活動を 支えるフェアトレード商品の販売などをする ボランティアを募集中です。まずはご連絡 ください。

問い合せ NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ Mail info@amani-va.com





・八木山中央商店会 〒982-0831 仙台市太白区八木山香澄町 4-6 TEL 022-229-7889 FAX 022-229-7895 Mail artric-yagiyama@max.hi-ho.ne.jp ミヤデン八木山店 伊藤典子 宛

・FabLab SENDAI-FLAT 〒980-0811 仙台市青葉区一番町 2-2-8 IKI ビル 4F-1 TEL 022-797-5384 Mail info@flatip.com その他 HP http://fablabsendai-flat.com

Facebook https://www.facebook.com/FabLabSENDAI.FLAT/

ろうと連携することになってからは、月に1回ミーティングをして意見を交わしました。 「自分たちのアイディアを受け入れてくれる人がいる街です」と小野寺さんは八木山の 魅力を話します。小野寺さんや大学生と商店街のつなぎ役は伊藤さん。掲載する

店舗の情報収集は、アンケート形式で実施。大学生たちと一緒に1軒ずつ店舗を 回りました。伊藤さんは「商店街を活性化させたいと思いはあっても、形にすることが できなかった。みんなのアイディアで可愛いマップになった」と笑みをこぼします。

## マップで変わる八木山の暮らし

小野寺さんは「FLATは今まで工房運営のイメージが強かったが、今回の協働で利 用者に違う一面を知ってもらうことができたと、今後の活動に意欲を燃やします。

商店を営む人も住民も高齢化する八木山。日々の買い物など暮らしの頼りは地元 の商店です。山田会長は「若い世代にも親しまれるよう八木山地域の商店にしかで きない工夫を続けたい」と未来を語ります。地域の資源を、まずは地元の人が活用で きるようにする。八木山商店街は、新たなまちづくりへの第一歩を踏み出しました。

(取材・文 鎌田みずほ)



## 地域活動・市民活動の強い味方

「商店街で新しいイベントに挑戦したい」「高齢者向けのレク レーションを企画している」「地域ぐるみで防犯活動を始めた い」など、お考えの人はいませんか。仙台市では、地域活動や市民 活動等を行っている人や団体に対してさまざまな支援を行って

▲制度を利田して制作した 『八木山中央商店街エリア くらしのマップ』

います。市ホームページの「地域活動・市民活動支援制度一覧」をご確認ください。

問い合せ 市民局市民協働推進課 仙台市青葉区二日町1-23 二日町第4仮庁舎2階 TEL 022-214-1080 市民活動支援一覧 仙台市 検索

な

水原の

「よーし・えんぐみ cafe-sendai」は、仙台 を拠点に養子縁組について気軽に話せる 場づくりをしています。カフェのような ん 温かい雰囲気の中で、養子縁組や里親に 関心がある人が集い、養子を迎えた家族 の体験談を聞いたり、専門家を招いて養子 縁組の法的な制度の勉強をしたり、情報を シェアしています。メンバーは、佐々木 啓子さんと菅原香さん。佐々木さんは特別 養子縁組で3人の子どもを迎えています。

> 厚生労働省のデータによると、社会的 養護を必要とする子どもは全国で約45,000 人。産みの親が育てられない子どもの約 87%は施設で暮らしています。子どもを 温かく迎える家庭が増えることを願って 2017年10月に団体を立ち上げました。日本 では、まだまだ養子縁組の成立事例が少なく、 身近ではないのが現状です。「知られていない」 ということが、養子やその家族に対する偏見 を生みます。菅原さんは、「色んな家族の形 がある。大人も子どもも生きやすい社会に なって欲しい」と願います。



一般社団法人アクロスジャパン小川さん(左)、佐々木さん

「産みの親が決断して送り出してくれた から、子どもたちと出会うことができた。 そのことは子どもに大切に伝えていきたい」 と佐々木さん。2人の活動は、産みの親、 養親、社会的養護が必要な子ども、教育 関係者やご近所さんなど、子どもをとりまく 地域の人たちの縁結びです。血のつながりに 関係なく、人は多様な関わりの中で生きて いるのだと実感しました。

「よーし・えんぐみ cafe-sendai」 問い合せ 080-6059-6845 (専用携帯 11時~18時 佐々木) Mail 44cafe.s@gmail.com